

# 麗和 サッカークラブニュース

Vol. 32

平成 23 年 12 月 12 日発行 発行人 麗和サッカークラブ会長 星野 隆之

## “新年初蹴り会 ご案内”

日 時 平成 24 年 1 月 8 日 (日)  
12 時集合 (ラグビー部の都合で今年は午後になりました)  
12 時 30 分～13 時 20 分 FC れいわ VS 現役  
13 時 30 分～14 時 20 分 ベテラン OB VS 一女サッカー部  
14 時 30 分～ 新年会 (麗和会館)  
雨天時 FC れいわ VS 現役 後 新年会  
会 費 社会人のみ 1,000 円  
連絡先 幹事長 宗久信男 (高 29 回卒) 090-8170-5922

### 四連覇成る(0-35 歳)

会長 星野隆之

10 月 23 日 (日) に行われた「第 11 回浦和四校サッカー部 OB 交流戦」には、27 名が浦和西高グラウンドに集結。0-35 歳は 1 回戦 4-1 (vs 浦和南) で快勝、決勝戦 1-1 (vs 浦和西) と引き分けながら両チーム優勝、四連覇に輝きました。「これが現役だったら、、、」との声が無きにしても非ずでしたが、なかなか成し得ない快挙に笑顔が絶えませんでした。0-50 歳は 1 回戦 0-1 (vs 浦和南) と敗れたものの、3 位決定戦で 1-1 (vs 浦和西) と気力体力を振り絞って意地の引き分けて両チーム 3 位。60 歳以上のエキジビジョンマッチは、浦和西高女子サッカー部に四校混成チームが挑みまし

たが、相手は埼玉県高校女子ベスト 4 の実力、0-4 の完敗を喫しました。詳しくは今村氏 (高 40 回卒) の奮戦記をご覧ください。

さいたま市民会館浦和に場所を変えての懇親会には 13 名が参加、途中から長らくペルー在住だった 12 回卒の竹島住夫さんが同期の嶋村正伸さんと馳せ参じて下さり、なお一層盛り上がった会となりました。

来年度は浦和南高が当番になります。今からトレーニングを開始してダブル優勝を狙いましょう！

### まだまだ会費がピンチ

11 月末日現在で、予算に対して約 12 万円強不足の状態です。この為、一番大切な現役支援費 40 万円のうち、10 万円分が未払いになっております。因みに平成 21 年度会費納入総額 (寄付金 11,5 万円を除く) は 89,3 万円、平成 22 年度 (寄付金 11

万円を除く) は 85,8 万円でした。毎年会員が増えているのに会費が減ってくる? 「人には言えない名門サッカー部 OB 会」になってしまいます。それぞれの年代でお声掛けいただき、今一步のご協力をお願いいたします。

## 浦和四校サッカー部 OB 交流戦 2011

高 40 回 今村嘉宏

2011 年 10 月 23 日、前日の激しい雨も上がり、すっきりとした秋晴れとまではいかないまでも、時折青空の覗く申し分のない天候の下で、第 11 回を数える四校交流戦が浦和西高グラウンドで行われました。

特に、我が浦高 B チーム (35 歳～49 歳) は四連覇がかかった本年の交流戦で、多くの参加者を得て、質量ともに近年にない充実したメンバーで臨みました。かく言う私は、前年冬に痛めたふくらはぎの状態が思わしくなく、治ったと思えば再発、更に反対の足の繰り返しで、塩野先生 (高 16 回) にもお世話になりつつ、交流戦までには間に合わせようとの願いもむなしく全快とはいかず、専門職がいらっしゃらなかったこともあり、量的充足感を満たすだけながら GK にて参加させていただきました。

ボールを蹴るのは 2 ヶ月ぶり、対外試合での GK は少年団以来という状況で、「ボールよ来るな、でも少しは触りたい」という矛盾かつ勝手な思いが交錯する私を知ってか知らずか、FW 陣は文字どおり相手を翻弄しまくり、DF 陣も未然に攻撃の目を摘むという理想の展開。とは言え 1 対 1 の場面も作っていただき、初戦南高は 4 対 1 で撃破、四連覇に向けて好スタートを切りました。

私自身、昨年までは名古屋勤務のため、久々の交流戦参加でしたが、年 1 回、同じ釜の飯を食った諸先輩、後輩と一緒にボー

ルを蹴る、しかも相手は浦和諸高ということもあって、自然に気持ちも高ぶり、真剣味あふれるサッカーができることの幸せを感じる貴重な機会と改めて感じました。名古屋赴任前までは、FC れいわに混じって、半分くらいの年齢の後輩達と一緒に身体を動かしていましたが、40 年以上も人間をやっていると身体にもガタが来るものと自覚せざるを得ない 2011 年で、再び頭体一致のサッカーをすべく、現在は一から体を作り直している最中です。

そのような GK を擁した B チームでしたが、決勝戦でも、若手が加わり昨年までとは様変わりした浦和西を相手に我慢強いサッカーを展開、先制されるも追いつき、見事に重圧に耐えきり四連覇の偉業を達成することができました。

この B チームの年齢層は公私ともに最も多忙な時期に当たり、全国、世界中にその活躍の場を広げておられる方が多いこともあって、なかなか時間を割けないのが現実かもしれません。ですが、秋天一碧の下で、気の置けない仲間との蹴球、近況報告などちょっとしたタイムスリップを楽しむ機会としては如何でしょうか。ぜひ、次回も多くの方々の参加を得て連覇を重ね、めでたく B チーム卒業という道筋を歩みたいと考えています。

転居等で住所が分からなくなった会員が増えております。同期の方たちで、お分かりになる方は下記の担当者にメールまたは FAX にてお知らせください。また、ご自身の転居の際も当会へのご通知、

名簿担当 宗久 信男

FAX 048-875-8075

メ

-

ル

OB 会長 星野 隆之

メール

## 現役報告

南部支部新人大会予選リーグ 結果報告

vs 大宮工業 5-0 vs 岩槻 4-0 vs 大宮武蔵野 9-2

南部支部新人大会決勝トーナメント予定

1月14日(土) vs 浦和北(浦和北)10:00~

1月15日(日) vs 国際学院(県立川口)12:00~

1月21日(土) vs 大宮南、岩槻北陵、小松原の勝者(大宮南)10:00~

1月22日(日) 準決勝(大宮南)10:00~

1月28日(土) 決勝(南稜)10:00~



学校会場には駐車スペースがありません。

申し訳ありませんが 最寄りの公共交通機関 をご利用ください。

## 2011年度 FCれいわ 戦績

主将 井上 峻也 (高 59 回)

埼玉県社会人リーグ 2部Aブロック

本年は震災の影響を受け、県リーグの開幕が5月になりました。その影響で後期は上位リーグと下位リーグに分かれました。

< 前期 >

1勝2分6敗で8位のため、後期は下位リーグへ

< 後期 >

3勝1敗

戦績 ; 4勝2分7敗 (勝ち点14) 第7位 県2部リーグ残留

< さいたま市体育大会・サッカー (旧浦和市民大会) >

県リーグ加盟チームのためシードで4回戦より登場

決勝で浦和レッズアマチュアに1-2で敗退。2年連続準優勝となる。

### 浦和四校サッカー部 若手OB交流戦のご案内

日 程 平成24年3月11日(日) 予定

会 場 さいたま市立浦和高等学校

集 合 8時集合

多数の参加、お待ちしております！

## 「サッカー文化の醸成に微力ながら携わりたい」

高 50 回 高野和也

私は、現在、浦和レッドダイヤモンズのオフィシャルマッチデープログラム（MDP）という冊子の製作を主に行う仕事に就いています。

MDP とは、浦和レッズのホームゲームのときに、スタジアムで発行されるプログラムです。当日の試合の見どころや過去の試合の戦評、選手のインタビューなどが掲載され、購入いただいたファン・サポーターの方たちに、その当日の試合を楽しんでもらえるような役割を担った冊子です。私自身は、日々、その取材、執筆、また編集業務を行っています。

私が今の職業のような、メディアの仕事でサッカーに関わりたいと考えたのは、大学時代でした。一度はサッカー以外の分野を仕事にしようかと考えましたが、やはりこのスポーツへの思いを捨てきれませんでした。

大学卒業後、04 年に NHK に記者として入局し、約 3 年、「取材」と「伝えること」の基礎を学びました（今、まがりなりにも、この業界で仕事を続けられているのは、このときの経験があったからだと考えています）。しかし、3 年目になったころ、NHK での記者という仕事は多岐にわたり、スポーツ、しかもサッカーだけを追いかけるのは非常に難しく、サッカーを突き詰めて、その魅力を伝えていく、という、私自身が目指しているものが実現しがたいことを感じていました。

そして、07 年 1 月、私は退職し、地元である埼玉県に戻りました。このとき、私の 2 学年上の渡辺隆正さん（現・浦和レッズユースコーチ）に相談をしたところ、MDP の編集長である、清尾淳氏を紹介していただき、今の仕事に就くことができました。

私は、現在、自分が目指すものに近い仕事ができます。それは、非常に幸せなことです。ただ、それは私の力ではなく、隆正さんや、私が埼玉県に戻ってきたときに相談に乗ってくださった星野先生、転職をする際に貴重なアドバイスと後押しをしてくださった浦高サッカー部の先輩など、多くの方たちのおかげだと考えています。

今、レッズは低迷していますが、浦和レッズというクラブが、ファン・サポーターを幸せにするために存在する、というところが変わりはありません。私自身は、MDP を通じて、少しでもその力になればと考えています。そして、レッズに起こるドラマを伝えるだけではなく、サッカーというスポーツそのものを正確に伝えることで、ファン・サポーターの方たちにサッカーの面白さ、魅力を伝えていきたいと思っています。

私は、サッカーを通じて多くのことを学び、そして、サッカーで知り合った人たちに支えられて、これまで生きてきました。そのサッカーへの恩返しも含め、日本のサッカー文化の醸成に、微力ながら携われたら、と考えています。

